

事業概要書

事業名	石巻圏域子ども・若者フリースペース事業				
開始日	2021年6月1日	終了日	2022年3月31日	日数	303日
団体名 (カウンターパート)	特定非営利活動法人 TEDIC				
担当者名	田野下 洋介	スタッフ人数	9人		

事業費総額(税込)	2,260,000円
CF事業枠	1,000,000円
その他資金	1,260,000円

事業目的	石巻圏域の子ども・若者を中心に、誰もが、コロナ禍であっても、目的が無くてもいつでも行ける、いつでも誰かと話ができる、素直な自分を少しでも出すことの出来る場所(フリースペース)づくりを行う。
事業全体の概要	<p>●特定非営利活動法人 TEDIC とは</p> <p>東日本大震災により、被災した子どもへの学習機会保障、安心して過ごすことができる居場所の提供から始まり、10年間活動を行ってきた。現在は「どんな境遇のもとに生まれた子ども・若者でも自分の人生を、自分で生きることが出来る地域社会を創る」をミッションとして活動を行っている。TEDICは先のミッションに則り、主に以下の活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>昼間、放課後の居場所</u> 昼は小・中学生のフリースクール、放課後は主に小4～高校生年代の子どもたちが夕食を食べたり宿題をしたりと、安心して夜を過ごせる拠点を石巻市内5か所で運営。 ・<u>生活支援</u> 居場所での食事提供、食を通じた生活のサポートを実施。コロナ禍では、フードバンクと連携して、緊急食糧支援も。 ・<u>学びの支援</u> 進学を目指す子どもへの受験対策や、塾、教育費支援をするNPOとの連携による個別サポートを含む「学び」のサポートを実施。 ・<u>訪問支援</u> 様々な理由で、通所が出来ない子ども・若者に対しては、スタッフや大学生ボランティアが直接出向いて、学習や生活のサポートを実施。 ・<u>相談支援</u> 石巻市、東松島市、女川町で暮らす0～39歳の子ども・若者、その家族のどんな相談でも受け止め、適切な機関を紹介する、総合相談窓口を運営。 ・<u>つなぎ支援</u>

継続支援が必要だと判断した子ども・若者を、そのニーズや抱える課題に応じて、適切な支援機関や人に、マッチング・つなぎのサポート。

・海と山の学校（仮）

石巻のアクティビティガイドや農家、漁師、猟師、アーティストの方たちと一緒に、若者や子どもたちが、様々な体験をできるプログラムを開発、運営。

●取り組むべき課題

【コロナ流行前の課題】

・コロナ以前の課題として、石巻市では児童・生徒のうち 11.1%にあたる 1,153 名が就学援助等の給付を受けており、18 歳未満がいる世帯のうち 8.5%にあたる 1,159 世帯がひとり親家庭である。これは全国平均よりも 1.2%高い数字となっている。虐待・ネグレクトでは、児童虐待および養護に関わる相談が 199 人、望まない妊娠など将来的に虐待やネグレクトに繋がる恐れのある特定妊婦が 34 人（2017 年石巻市福祉部虐待防止センター）となっている。また、分野横断的な支援をワンストップで展開する中核相談機関に寄せられた 671 件の相談のうち、86.3%が経済・家庭・学校・人間関係等の課題を重複して抱えているケースであった。

・以上のように、コロナ流行前より課題内容は多岐にわたり、それらを重複しているケースが多かった。また、以上の数字はあくまでも相談機関に寄せられたケースの統計である。相談が出来ない状況に置かれている、自分自身の状況に課題感を持っていないといった、潜在的に支援を必要とするケースはまだ多く存在していると考えられる。

【コロナ流行後の子どもたちを取り巻く状況の変化】

・コロナ後の変化として、TEDIC が 2020 年度 4 月～5 月に実施した『石巻市生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業業務新型コロナウイルス感染症による生活状況への影響調査』の結果によれば、子どもたちのやりたいこととして、「友だちと遊ぶこと」、「外で体を動かすこと」、「外出すること」、「勉強を教えてもらうこと」が上位に挙げられ、子どもたちの生活環境の変化に対応した関わりの場の必要性が確認できた。また、「友だちと話したい」、「情報を届けてほしい」という回答があったが、これは、学校休校・外出自粛により、学校生活等で得られていた情報や友だちと出会う環境から離れざるを得なくなり、対人関係の制限、スポーツ等の機会が失われたためと考えられる。

・さらに石巻市が平成 30 年 9 月～10 月に行った『第 2 期石巻市子ども未来プランー第 2 期石巻市子ども・子育て支援事業計画ー』（令和 2 年 3 月策定予定）によるアンケートより、子ども達に関わりを持つ、親以外の大人が一般層の世帯に比べ、困窮層の世帯ほど、「道で会ったらあいさつしてくれる人」、「自分を大切にしてくれる人」の割合が低く、「特にいない」の割合が高くなっている。という結果が出ている。

・コロナ以前から親以外との大人との関わりが少ない困窮世帯の子ども達が、コロナ後に今まで以上に親以外の大人や友だちといった他者との関わりや情報を得る機会が減っていることが TEDIC と石巻市が実施したアンケート結果より明らかである。

・TEDIC でも総合相談センターを実施しているが、その多くは支援者や家族からの「つ

なぎ」であり、本人からの相談は多くはない。子どもや若者からすると支援機関の相談窓口は行くまでのハードルが高く、困りごとを抱えた時に、すぐに相談できないのは地域の課題である。

【コロナ流行後の課題】

・上述のとおり、これまで学校生活などで不特定多数の他者と顔を合わせ、人間関係を構築してきた子どもたちがその機会が失われていることは、今後の生育にも影響を与えると考えられる。また、学校休校、外出自粛に伴う家庭内での閉塞感や家族との関係性悪化、昼夜逆転など、生活の基盤が崩れきているケースも多くみられている。

・日本財団が2021年2月12日~16日に全国の17~19歳を対象にインターネットを利用して行った『18歳意識調査「第35回 - コロナ禍とストレス -」』によると、主に外出したり人と会ったりする時間が減っているというアンケート結果が出ている(※参考資料 別添1 P48)。また、自分自身がコロナ禍による閉塞感を感じているかというに関しても、アンケートでは半分以上が閉塞感を感じていると回答する(※参考資料 別添1 P5~8)など、自由に外出できないということや、人と会う機会が少なくなってしまったとの回答が多く挙がった。上記のアンケート結果より、全国的に気軽に外出が出来ないことや人と会う機会が減ったことで閉塞感を感じている若者が増えている実情が読み取れる。

・TEDICが石巻市より受託運営している「石巻市生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業業務」(上述の「●特定非営利活動法人TEDICとは」内、放課後の居場所・生活支援・学びの支援・訪問支援に該当)は、石巻市の生活保護世帯、生活困窮世帯の小学4年生~高校生年代の子どもたちが対象となっている。TEDICの事業の対象者に対しては、コロナ禍においてもオンラインでの活動や感染症対策を実施の上で訪問支援を行うなどのアプローチを行い、学習・生活支援を通して他者と関わる機会や必要な情報の提供などを保障している。一方で、経済的困窮の有無によらず、すべての石巻圏域の子ども・若者がコロナによる影響を受けていると考えられ、安心できる他者との関わりやそれが担保されるような居場所が必要とされている。

・以上のような課題に対し、TEDICが受託している事業の対象となっている子どもたちだけでなく、石巻圏域で生活している子ども・若者の権利を保障していく為にも該当事業にて石巻圏域の子ども・若者の誰もが行ける、誰かと話せる場所づくりを行っていく。

●パートナー協働プログラム対象事業

コンポネート①誰でも気軽に來れるフリースペース事業

・誰でも行ける、誰かと話が出来居場所の設置を目的に、TEDICがオフィスとして借用しているビルの1階を新たに借り、フリースペース作りを実施する。石巻市には、児童館が1つ、若者向けであるユースセンターについても石巻市子どもセンターらいつの1つのみとなっており、少ない状況で有る。常設のフリースペースを作ることにより、家から外出する機会や行き場を増やすことが出来る。

- ・また、石巻圏域を中心に活動を行っている農園、漁師、シーカヤックや山散歩のガイドなど様々な分野で活躍、魅力を持っている地域の方々との連携を行う。子ども・若者の新たな繋がりや出会いの機会が生まれるだけでなく、このフリースペース以外で子ども・若者の活動場所を増やしていく。
- ・子ども・若者を中心に、地域で子どもたちを支えていく環境づくりを行うためにも、彼らの家族や関係機関の方なども利用できるよう整備を行う。
- ・従来事業で従事しているスタッフが、本事業においても継続して対応する。

コンポネート②フリースペースにおける子ども・若者に対する相談支援事業

- ・フリースペースに来所した子ども・若者の悩みの相談を目的とし、TEDICで行っている石巻圏域子ども・若者総合相談センターの相談員との連携を行う。来所した子ども・若者への相談支援を行い、TEDICの事業に繋ぐことや他機関への紹介等、中・長期的に子どもへの支援を行っていく。

●期待される効果

コンポネート①

- ・特定制度による事業ではないため、対象や頻度が限定されていない。子どもや若者にとって、無料で自由に通うことが出来る場所が石巻に出来る。
- ・家族や身近な友人以外の人たちとの交流や繋がりを持つ場となる。
- ・利用できる年齢の幅を広くとることで、子どもや若者たちにとってのロールモデルを発見する機会となる。
- ・子ども・若者以外にも地域の人々の利用が出来ることにより地域全体で子ども・若者を支えていくことに繋がっていく。

コンポネート②

- ・特に目的が無くても行ける、子どもや若者を受け入れてくれる人がいる場所の中に、「ながら相談」機能を埋め込み、困りごとの早期発見を図る。
- ・まだ、困りごとがあっても相談できていない、他者と比べると「自分はまだ我慢しなきゃ」と我慢をしているであろう子どもたちに対して、相談する場所や機会を用意できる。
- ・子どもたちが定期的に来ることで状態の把握が出来る。
- ・総合相談センターがフリースペースのあるTEDICの借用ビルの2階部分に設置されているため、「ながら相談」をする中で、周りに聞かれたくない話等もすぐに2階の総合相談センターに案内をすることが出来るのでより本格的な相談に繋げることも可能となる。
- ・TEDIC借用ビルが市役所やハローワークなど各支援機関に近い為、相談後すぐに
対
象者が利用をしたい、必要な機関に繋ぐことが出来る。

	<p>●このプロジェクトの継続実施に向けた今後の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナー協働プログラム終了後は、TEDIC が宮城県から受託している「石巻圏域子ども若者総合相談センター」の事業の一環として、継続実施を行っていただけるように今年度の取り組み、実績の報告を随時宮城県に行っていく。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	
<p>コンポーネント①誰でも気軽に來れるフリースペース事業</p> <p>(1) 時期 6月1日～通年</p> <p>(2) 場所 当法人借用ビル1階部分</p> <p>(3) 対象者・人数 石巻圏域の子ども・若者 約47,000名</p> <p>(4) 内容 石巻圏域の子ども・若者が、目的が無くてもいつでも行ける、いつでも誰かと話ができる、素直な自分を少しでも出すことの出来る居場所の設置を目的に TEDIC のオフィスがあるビルの1階を新たに借り、フリースペース作りを実施する。</p> <p>※スペースを設置するところから始まるので設置完了次第スペースの運営が開始となる。</p> <p>※フリースペースには、TEDIC の職員や TEDIC 所属の大学生ボランティアだけでなく、子どもを取り巻く石巻地域の人々が関わる。</p> <p>※コロナ感染予防対策をしっかりと講じた上で実施する。</p>	<p>裨益者 (誰が、何人)</p> <p>石巻圏域の子ども、若者 利用者約4,7000人</p>
<p>コンポーネント②來所した子ども、若者に対する相談支援事業</p> <p>(1) 時期 ①が開始になり次第、通年</p> <p>(2) 場所 TEDIC オフィスのあるビル1階部分</p> <p>(3) 対象者・人数 石巻圏域の子ども・若者 約47,000名</p> <p>(4) 内容 フリースペースに來所した子ども・若者の悩みの相談を目的とし、相談員との連携を行う。來所した子ども・若者への相談支援を行い、TEDIC の事業に繋ぐことや他機関への紹介等を実施。中・長期的に子どもへの支援を行っていく。</p> <p>※コロナ感染予防対策をしっかりと講じた上で実施する。</p>	<p>石巻圏域在住の子ども・若者 約4,7000人</p>